

イエス・キリストと 一世紀の世界



クラス 4

イエスとローマ帝国

2006年11月22日

イエスの時代の政治的構造

ローマ帝国(皇帝)



ユダヤの王・ローマの総督



大祭司



祭司長たちと最高法院



会堂長



ローマ皇帝	ユダヤ・サマリア治める ユダヤ人指導者 ローマ総督	ガリラヤ・北部治める ユダヤ人指導者
ユリウス・カエサル	(ローマのポンペイ大將がエルサレム征服	
44BC暗殺される	パレスチナのローマ支配の時代始まるー63BC)	
アウグストス(27BC-14AD)	ヘロデ大王イスラエルの王(37ー4BC)	
	ヘロデアルケラオ領主 (ユダヤ、サマリア、イドメア) (4B.C-6A.D.)	ヘロデ・アンティパス領主 (ガリラヤ・ペレア)
	コポニウス(6ー10)	ヘロデ・フィリポ領主 (北東地域)
	マルコスアムビヴォラス	
ティベリウス(14ー37)	アンニオスルファス(13ー)	
	ヴァレリウスグラテュス(15)	
	ピラト(26ー36)	
カリギュラ(37ー41)	マーセラス(36ー38)	ヘロデ・アグリッパ王一世
クラディウス41ー54	マルーラス(38ー41)	パレスチナの王(37ー44)





ローマの皇帝

アウグストス(27B.C-14A.D)

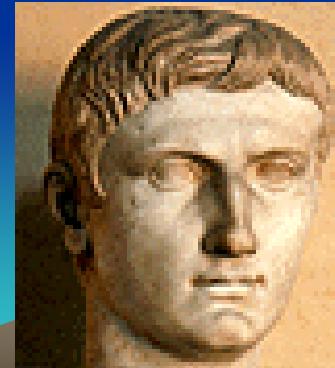
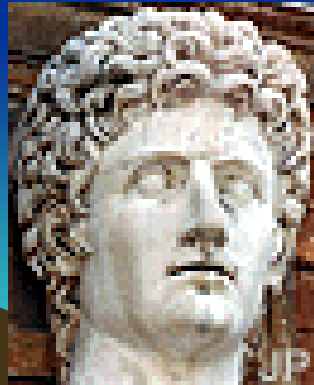
ガイウス・ユルユス・オクタビアン・カエザル

ローマ帝国史で最も影響力のある人物

クリスチャンにとっての問題となる皇帝崇拝を始める。

ルカ2:1 そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。

アウグストスの時代にイエスが誕生した

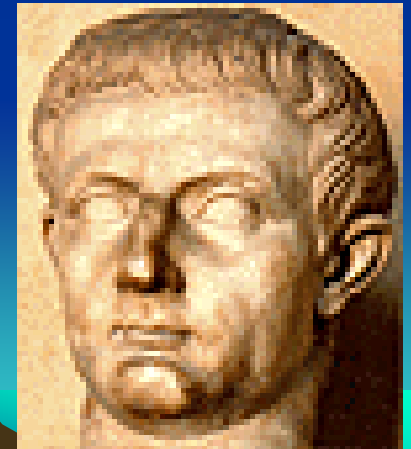
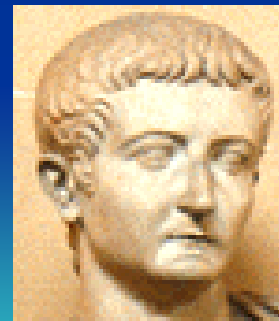


ローマの皇帝

ティベリウス(14ー37A.D)

ティベリウス・ユリウス・カエサル・アウグストス
比較的に平和な時代、クリスチャンにとって大きな問題となるわけではない。ティベリウス皇帝の時代にイエスの宣教活動と十字架の死刑などがあった。

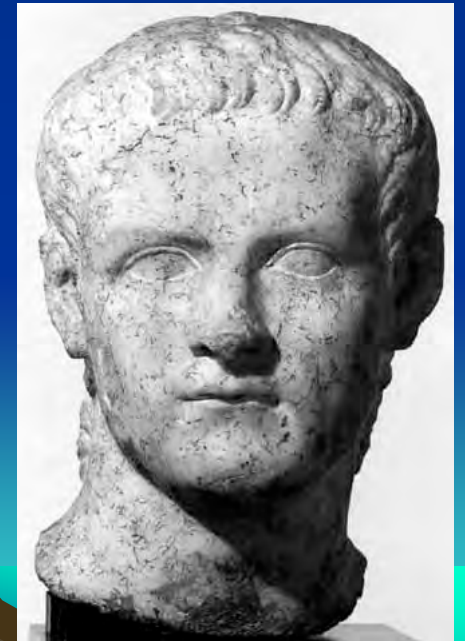
ルカ3:1 皇帝ティベリウスの治世の第十五年、



ローマの皇帝

カリギュラ(37ー41A.D)

ガイウス・ユリウス・ガエザル・ゲルマニカス
政治能力の無い皇帝であった。クリスチャンに
とって特に問題となったわけではない。

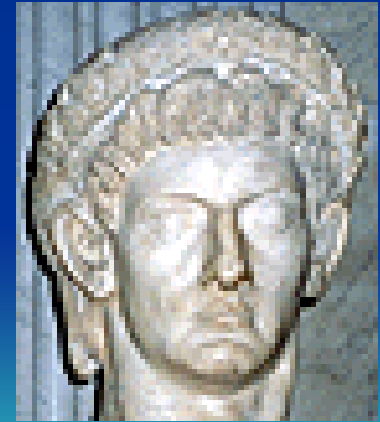


ローマの皇帝

クラウディウス(41ー54A.D)

ティベリウス・クラウディウス・ネロ・ゲルマニカス
特に問題となるわけではない。皇帝としていい
部分と悪い部分があったが、ネロを皇帝に後継
ぎとしたことに責任は大きい。

マタイ22章



ローマの皇帝

ネロ(54―68A.D)

ネロ・クラウディウス・カエザル

指導者としての経験の無さ、高慢さ、残酷さで知られている。クリスチャンにとっては最悪の皇帝となる。64年のローマの火事をクリスチャンの責任にし、多くのクリスチャンを殺した。ペテロとパウロもこの年殺された。ローマ帝国からの大きな迫害が始める。パウロが皇帝に訴えた時は最悪のネロ皇帝での時代であった。



ヘロデ大王

ヘロデ大王 (74BC-4BC)

マタイ2:1 イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。

無実者の虐殺

マタイ2:16 ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。

ユダヤ人ではなく、イドミア人(エドム人の子孫)
ローマの国会により「ユダヤ人の王」と任命(BC40)



ヘロデ大王

30BC アウグストスにより改めて任命される

22BC カエザリアを設立ー ユダヤ人から反響

20BC 神殿の建設

10BC 新しく生まれ変わった神殿の完成

6BC ファリサイ派の宣言「メシアの誕生はヘロデの時代の終わり」と。ファリサイ派に対して厳しい対応

4BC 神殿の門にあった黄金の鷲の像、ファリサイ派により壊された。アウグストスはこれに対して死刑を認める



ヘロデ大王

本当のユダヤ人ではなかった。ローマ帝国との関係を利用して王座にたった。これはユダヤ人にとって屈辱的であった。特にファリサイ派にとってはローマ又はギリシヤ的なカエゼリアをつくるなど、決してユダヤの王にふさわしくないものとみなした。政治的な力でファリサイ派に圧力をかけたり、無実な子供を虐殺するなどひどい王様であった。



ヘロデ・アンティパス

ヘロデ王の息子。 20BC誕生、ローマで教育を受ける。カエザルの人質だと考えられる。

ヘロデ・アンティパス領主(ガリラヤ・ペレア)

TETRARCH: 四領土の領主

ティベリウス皇帝を称えるためにティベリウス(ガリラヤの湖の西側)を首都とし、立派にした



ヘロデ・アンティパス

マタイ14:1-5 そのころ、領主ヘロデはイエスの評判を聞き、家来たちにこう言った。「あれは洗礼者ヨハネだ。死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」実はヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。ヨハネが、「あの女と結婚することは律法で許されていない」とヘロデに言ったからである。ヘロデはヨハネを殺そうと思っていたが、民衆を恐れた。人々がヨハネを預言者と思っていたからである。



ヘロデ・アンティパス

自分の罪を戒めた洗礼者のヨハネを残酷な殺し方で殺害した。しかも義理の娘を喜ばすために。自分が兄弟フィリポの妻ヘロディアと再婚したことがこのきっかけとなった。元の妻の父が戦争を起こし、彼は負けた。歴史者ヨセフスによるとこの戦争の敗北は「いい人であったヨハネに対して行った罰である」と書いた



ヘロデ・アンティパス

ルカ23:6-12 これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

ヘロデ・アンティパス

自分の欲のことだけ考えイエスを呼びほしいものを
得られないとイエスあざけり、侮辱した。
イエスをきっかけにピラトの関係を改善した。



ヘロデ・アルケラオ領主

領主：ユダヤ、サマリア、イドメア（4B.C-6A.D）

生涯： 23BC-18AD

ETHNARCH： 人種の領土の主

マタイ2：22－23 しかし、アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、ナザレという町に行って住んだ



ヘロデ・アルケラオ領主

父の残酷さを受け継いだ。ファリサイ派との衝突の結果3000人を殺害した。

結果的にイエスの家族はアルケラオの領土を離れ、アンティパスの領土へ行く(ガリラヤ)

あまりにもひどい指導者であり、ユダヤ人とサマリア人が一致してローマに彼をおろすことを願う。(6AD)アルケラオはフランスに移動し、ガリラヤのユダによる反戦により、ユダヤがローマ帝国の州となる。



ヘロデ・アグリッパ王 I

パレスチナの王37－44AD

ローマに育ち、皇帝カリギュラの親友。

カリギュラが皇帝になるとアグリッパを「王」と任命する。教会を迫害し、ヤコブを殺す。

使徒12:1－3 そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。



ヘロデ・アグリッパ王 I

使徒12:21-23 定められた日に、ヘロデが王の服を着けて座に着き、演説をすると、集まった人々は、「神の声だ。人間の声ではない」と叫び続けた。するとたちまち、主の天使がヘロデを撃ち倒した。神に栄光を帰さなかったからである。ヘロデは、蛆に食い荒らされて息絶えた。

ヨセフスの話： オウムが死の宣告をした。ほぼ
同じ話



ヘロデ・アグリッパ王 II

48－70 北の領域の領主

使徒23:35「お前を告発する者たちが到着してから、尋問することにする」と言った。そして、ヘロデの官邸にパウロを留置しておくように命じた。

いずれパウロは総督フェリクスとフェストスの前で裁判となる。(ローマ人としての裁判)



ユダヤの総督ピラト

26－36AD ユダヤ(IUDAEA)州の総督(ユダヤ、サマリア、イドミア)

最終的にイエスに死刑の判決をくだした。この判決はユダヤ人の指導者には権限が無かった。ユダヤ人はピラトを利用してイエス死刑にした。

役割は主に軍事的、税金を集めたり、暴動を防ぐ。大祭司を任命していた。普段はカエゼリアに滞在し、大きな祭りがあるとエルサレムにいた



ユダヤの総督ピラト

ルカ 3:1 皇帝ティベリウスの
治世の第十五年、ポンテ
ィオ・ピラトがユダヤの総督
、ヘロデがガリラヤの領主



Third line "Pilatus." Highlighted in red →

ユダヤの総督ピラト

ルカ13:1 ちょうどそのとき、何人かの人に来て、
ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに
混ぜたことをイエスに告げた。

ガラリアは反乱の多い地域であった。ピラトは
平和を保つために残酷な手段をつかった。

自分の民をこのようにしたピラトに直接イエスが
会うことは深く考えさせられることである。



まとめ

- イエスの時代（後に使徒の時代）には多くの悪い指導者がいました。クリスチャンを苦しめ、不利なことが多くありました。しかし彼らの信仰はその状況の中で輝き、これらの国が滅亡しながら、神の国は力強く成長し続けました。
- これは今世紀の私達にとって大きな励みとなるでしょう。

